

温室効果ガス削減実施状況報告書

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

山陽染工株式会社 本社工場

(2) 事業所の所在地

福山市一文字町6番1号

(3) 業種

1141 綿・スフ・麻織物機械染色業

2 計画の期間

本計画の期間は、平成19年(2007)年度を基準年度とし、令和3(2021)年度から令和7(2025)年度までの5年間とする。

3 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標の達成状況

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量（t-CO₂）、削減率（%）

温室効果 ガスの種類	基準年度 排出量(a)	目標年度 上段：見込量 (b) 下段：削減率 (c)	計画期間の実績 (上段：実排出量(d)、下段：削減量の対基準年度比 (e))				
	平成19年度 (2007)	令和7年度 (2025)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)
エネルギー 起源CO ₂	11,213	6,422 42.7	6,579 41.3	7,365 34.3	6,337 43.5	6,290 43.9	
非エネルギー 起源CO ₂		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
メタン		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
一酸化二窒素		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
その他 温室効果ガス		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
温室効果ガス 実排出量総計	11,213	6,422 42.7	6,579 41.3	7,365 34.3	6,337 43.5	6,290 43.9	
温室効果ガス みなし排出量							
実績に対する 自己評価	生産量減少と合わせて高効率ボイラー導入効果もあり、エネルギー起源CO ₂ の基準年度に対する令和6(2024)年度排出量は43.9%の削減となった。今後、生産量が増加した場合でも削減目標を達成・継続できる様に温室効果ガス排出抑制に向けた取り組みを継続致します。						

※ 削減率(c) = ((a)-(b))/(a) × 100 削減量の対基準年度比(e) = ((a)-(d))/(a) × 100

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：

温室効果 ガスの種類	基準年度 原単位 (a)	目標年度 上段：原単位 (b) 下段：削減率 (c)	計画期間の実績 (上段：原単位実績(d)、下段：削減量の対基準年度比 (e))					
	平成 年度 ()	令和 年度 ()	令和 年度 ()	令和 年度 ()	令和 年度 ()	令和 年度 ()	令和 年度 ()	令和 年度 ()
エネルギー 起源CO ₂		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
非エネルギー 起源CO ₂		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
メタン		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
一酸化二窒素		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他 温室効果ガス		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
温室効果ガス 排出量総計		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
エネルギー消費 原単位 (原油換算kl)		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
実績に対する 自己評価								

※ 削減率(c) = ((a)-(b))/(a) × 100 削減量の対基準年度比(e) = ((a)-(d))/(a) × 100

4 温室効果ガスの排出の抑制に係る具体的な取組の実施状況

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組

	項 目	削減量等	具体的な取組
1	重油使用量の削減	エネルギー起源CO ₂ 排出量を 969.9t-CO ₂ 削減	・ 温室効果ガス排出の少ない燃料への転換（重油⇒都市ガス）49%運用 ・ 重油焚き高効率貫流ボイラー導入活用（2024年1月～） ・ 廃熱回収（蒸気ドレン回収）
2			
3			
4			

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組（環境価値の活用等）

	種 類	合計量
1		
2		
3		

○ その他の取組

	項 目	削減量等	具体的な取組
1	廃棄物の再資源化	回収率 100%	分別収集および資源化の徹底 屑鉄・空缶・蛍光灯等 ⇒ 回収業者
2			
3			

※ 環境に配慮した実践的な取組などをされていれば記載してください。